

川崎陸送

QCサークル代表発表大会を開催
「業務を止めない」体制づくりが優秀賞に

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口忠一社長)は6月25日、東京都内で第56回QCサークル代表発表大会を会場参加とリモート方式も組み合わせて開催した。予選を勝ち抜いた10サークルが取り組みを発表。前期末期の改善提案発表と表彰式も行われた。

QCサークル代表発表会で第1位(優秀賞)を獲得したのは、赤穂営業所の事務職で構成されるサークル「ひよこ物流」。新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威を振るう中、同時に2人の感染者が出た場合を乗り切るため、事務分担の見直しを実施した。

通常時の事務職5人の業務分担割合を明確化。2人がどの組み合わせで休んでも業務が継続できるように「1業務3人体制」を指し、出勤者の負担を下げるために在宅リモートにも挑戦。2月には相次いで2人のコロナ感染が



樋口社長がリモートで「ひよこ物流」を表彰

判明したが、難局を乗り切れた。これらの取り組みにより、他営業所から助動を受けた場合のコスト増回避や、平時における時間外労働の削減も期待できるほか、リモートワークによるBCP対策の強化や介護支援、子育て支援といった「働き方改革」にも寄与できるとした。

なお、第2位(優良賞)は、流通加工作業で新人スタッフの理解度促進による作業効率アップを目指した坂戸流通センターの「チームきのたけ」が受賞。第3位(努力賞)には、入庫業務の効率化に取り組んだ、通関東京営業所の「湾岸クラブ」が選ばれた。

改善提案発表では、32件の入賞の中から、最優秀賞1件、優秀賞3件、努力賞1件を紹介。最優秀賞の山本英子氏(赤穂営業所)は、リモートワークでの小口運賃入力時に伝票、運賃表を不要とする仕組みを構築し、業務の分担と出勤者の負担減を実現した。

樋口由人取締役が講評を行い、インプレを念頭に「これからは『安い自慢』は通用しなくなる。無料のサービスを見直し、気が付いたら手を打つとともに、QCにおいても、削るだけでなく、価値をつくる。ことが必要になる」と述べた。